OUKA
Osaka University Knowledge Archive

Title	ごあいさつ
Author(s)	川勝, 傳
Citation	癌と人. 1986, 13, p. 1-2
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/24050
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

ご　あ　い　さ　つ

理事長　川　勝　　傳*

皆さまには，益々ご清祥のこととおよろこび申しあげます。

平素は，財団法人「大阪癌研究会」に対しまして格段のご協力をたまわり厚くお礼申しあげます。

わが国は21世紀初頭には本格的な高齢化社会となり，全人口の16％が高齢者となることが予測されています。種々の機能低下が不可避で，かつ完治しにくく後遺症を残すことの多い慢性疾患に罹患しやすい老人人口の増加と，それに伴う医療費の増大に対応するため，今後の医療のあり方に大きな方向転換が求められています。

この人口の高齢化は，とりもなおさず癌患者の増加に連がる問題であります。癌による国民の死亡は依然として増加の一途をたどり，昭和60年の犠牲者はついに18万人を超え，死因の第１位を続けています。これは，老人問題とあわせ考えるとき，まことに憂慮すべき事態であります。

われわれは，多年にわたり，癌予防のための知識の普及と，早期発見のための検診の拡大，そして学術研究の奨励助成に努めてまいりました。

昭和60年６月29日，大阪ロイヤルホテルにおいて，10名の著明な癌研究者（米国７名，スエーデン１名，韓国１名，日本１名）をお招きし，「国際大阪がんセミナー」を開催したところ，多数の御参加をえて，盛大に，かつ実り多い集会となりました。その記録も「Osaka International Cancer Seminar, 1985」として発行，配布することができました。

一方，がんの早期発見の検診事業として，従来通り，乳がんと大腸がんの集団検診を大阪府下において広く行なって参りました。そして着実に大きな成果をあげ，多くの早期発見者から感謝されています。このように本研究会の目的が遂行できますのも，大阪大学微生物病研究所附属病院外科，放射線科の研究と実践行動のたまものでありますが，この活動を深く理解していただいて，多大なご協力，ご支援をたまわっております，大阪府下各市町村，自治体，大阪商工会議所，吹田母子会，財団法人「大阪対ガン協会」に対しまして，厚く御礼申し上げるとともに深く感謝の意を表したいと存じます。

このように，本研究会としては，財団法人大阪対ガン協会，大阪商工会議所あるいは各種団体の御理解と御支援をえまして，わが国そして大阪府のがん対策事業の一翼を荷って，がん征圧のため活動を広げてゆきたいと念願いたしております。

国は「対がん10カ年総合戦略」という大きな構想をもってスタートしています。日米の

*南海電気鉄道株式会社取締役会長

がん研究の交流とか，これぞと思う重点課題に対する研究の助成とか，すでに各方面で活発に動いています。これらは主として，がん研究の方に向けられており，いますぐにはわれわれに還元されるというものではありません。

したがって，いまわれわれができることは，癌にかかっても死なないことであります。そのためにはがんを早期に発見してもらって，早期に治療してもらうことなのであります。

国をあげてこのことに取り組めば，いまでも癌死は半分にすることは可能であるといわれています。

がんになっても助かるということになれば，高齢化社会も本当に楽しめる便利な時代となるでしょうから，早期発見のための検診事業をもっともっと真剣に考え実行しなければならないと思うのであります。

がん征圧を通じて，本研究会の活動も一層重要な役割を持つものであることを自覚し，今後ますます各方面の活動をさかんにするべく努力を重ねてまいる所存でございますので，皆さまの強力なご協力，ご支援を切にお願い申しあげます。